

令和7年度運営評議会

産官学連携研究センター



NIBN

National
Institutes of
Biomedical Innovation, Health and
Nutrition

『産官学連携研究センター』

▶ 背景・社会的意義等

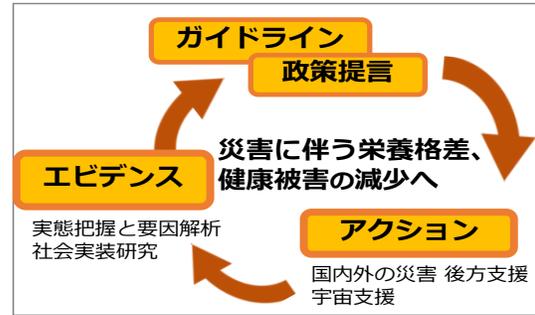
- 栄養と身体活動に関するWHO協力センターの窓口となり、持続可能な食環境等に関する共同研究を通して国際連携ネットワーク強化を図りグローバルヘルスに貢献する。
- 災害等の特殊環境における栄養不良、栄養格差を減らすため、研究成果を国際的に発信するとともに、国内外の災害への後方支援によりグローバルヘルスに貢献する。
- 誰一人取り残さない持続可能で自然に健康になれる食環境の整備に関する研究を、本研究所がハブとなって産官学連携を深化させ、栄養・食生活及び身体活動に関する研究データを利活用し、様々な角度で日本人の現状及び課題を明らかにし、国民の健康の維持・増進に貢献する。



【国際栄養連携研究室】

▶ 目標・令和7年度実績・成果・課題

- WHO協力センター活動の一環として、国際協力外国人研究者招へい事業（招へい事業）および持続可能な食環境研究に関する国際研究ネットワークの強化を進め、令和7年度の招へい事業では、政策実務者としてフィリピンから1名を招き、既存の研究テーマを発展させる共同研究を開始した。今後、招へい研究者との共同研究の進展や継続的な国際研究ネットワークを展開する。
- 令和6年能登半島地震での食事提供実態調査や衛生問題、災害時の食物アレルギー対策に向けた研究および宇宙環境における日本人の栄養摂取基準設定の研究を実施した。今後は被災地で収集されたD24H等の災害時データから、被災者の健康問題、地域差・時系列変化・課題構造を多角的に評価する。
- プラネタリーヘルスダイエットと排便状況との関連の検討や食環境整備のための社会実装に資する研究実施に向けた準備を進めている。今後は、食環境整備に係る事業の更なる推進および弘前大学等他機関との連携を深めて研究を展開する。



【災害栄養情報研究室】

▶ ポイント

- WHOが直面する課題を踏まえ、可能な限りの支援を行うこと、さらにWHO協力センター間の連携ネットワークを構築し、支援体制を強化することを基本方針として事業を展開した。
- 令和6年能登半島地震の被災地に赴き、現地食事の実態や衛生問題などの課題を抽出し、さらに災害食アレルギー対応に関する研究を行った。
- 食環境整備のための社会実装に資する研究に向けた準備を進め、食環境整備に係る実証事業のためのフィールド開拓および大学や医療機関など他研究機関との連携を強化し研究展開をした。



【研究連携推進室】

『産官学連携研究センター』のミッション



【災害発生時の後方支援】

食環境・栄養状態のリアルタイム分析
食・栄養支援のサポート

【産官学連携・普及啓発】



医薬基盤・健康・栄養研究所監修
災害食



災害食開発

料理人炊き出し支援（たべぷろ連携）

国際ネットワーク

栄養と身体活動の国際研究ネットワークを強化推進

栄養と身体活動に関するWHO協力センター
運営事務局

- ・ 海外との交流・共同研究
- ・ 海外研修生の受け入れ
- ・ 国際シンポジウムの開催
- ・ 国際機関との協力・連携



特殊環境の栄養改善 ・ 社会実装



- ・ 世界初となる宇宙栄養コース
- ・ 月面滞在に向けた食ソリューション開発

特殊環境のエビデンスから平時の栄養改善を目指して

産官学連携

- ・ 持続可能で自然に健康になれる食環境モデル構築に資するエビデンスの創出
- ・ 研究データベースを活用した食生活に関する研究をスタート



持続可能で自然に健康になれる食環境を目指して

『産官学連携研究センター』の研究プロジェクト（令和7年度）

【国際栄養連携研究室】（伊東秀之室長兼任）

- ・ 栄養と身体活動に関するWHO協力センター事務局
- ・ 国際協力外国人研究者招へい事業
- ・ WHO協力センター間の連携

【災害栄養情報研究室】（伊東秀之室長兼任）

- ・ 令和6年能登半島地震での食事提供実態および衛生問題の調査
- ・ 災害時の食物アレルギー対策に向けた研究
- ・ 宇宙環境における日本人の栄養摂取基準設定の研究（連携大学院）

【研究連携推進室】（北岡かおり室長，原田萌香研究員）

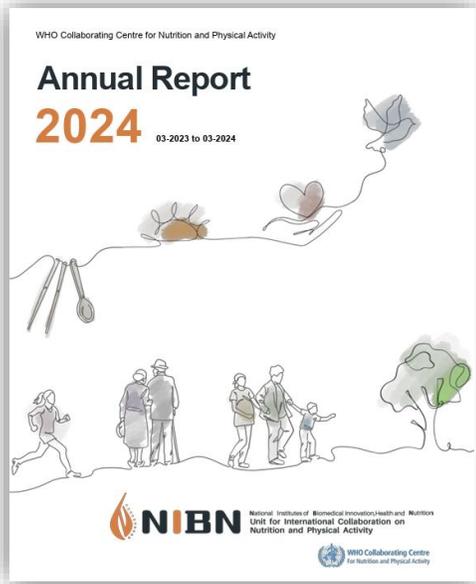
- ・ 持続可能な地球を人にやさしい食事に資する研究
- ・ 食環境整備のための社会実装に資する検討
- ・ 「食環境整備推進のための産学官連携共同研究プロジェクト」の事務局

『国際連携栄養研究室』：栄養と身体活動に関するWHO協力センター

西太平洋地域WHOCC

地域フォーラムでの活動報告

2024年度年次報告書



WHO西太平洋地域の
栄養不良の二重負荷改善

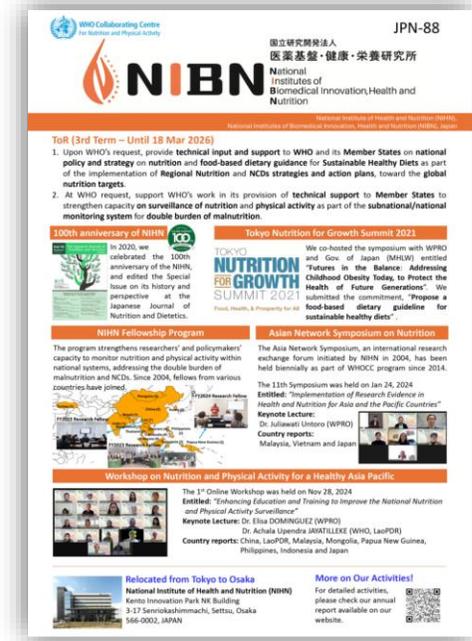
加盟国研究者や政策
立案者の能力を強化

新たな研究の発展

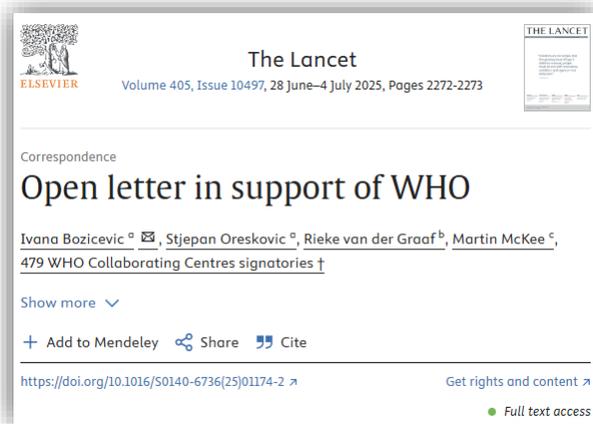
WHO西太平洋
地域事務局

WHO CC webサイト
の充実

研究ネットワークの構築



WHO存続の危機に対する共同署名



アジア栄養ネット
ワークショップ

トレーニングモ
ジュールの開発
(ワークショップ)

国際協力外国人研
究者招へい事業

- 栄養と身体活動のサーベイランス
- 食品ベースの食事ガイドライン開発
- 食育
- 健康的な食事と栄養不良の二重負荷



他のWHO協力センターとの連携による国際シンポジウム開催

『国際連携栄養研究室』 招へい事業、アジア栄養ネットワークシンポジウム

令和7年度国際協力外国人研究者招へい事業

第12回アジア栄養ネットワークシンポジウム

招へい国：フィリピン

招へい機関、役職：フィリピン栄養財団、プロジェクトリーダー

招へい期間：2025年7月～2026年3月

来日期間：2025年12月1日～2026年2月28日

持続可能な食を支える食育推進のための政策及び行動を評価する枠組みの策定に関する調査

西太平洋地域の国々において、食育の推進には政策環境の整備と、政策を的確にモニタリング・評価するための国家レベルの調査基盤構築が重要であることを示唆しました。今後は、継続的な研究交流と共同研究を通じて本分野の発展を図る。

NIBN

第12回
アジア栄養ネットワーク
シンポジウム

参加無料
(要登録)
開催言語：英語

テーマ 栄養プロファイリングモデルの開発と実装

講演者 基調講演
「東南アジアにおける健康的な食政策の実施を支援する栄養プロファイリング」
Dr. Angela de Silva
(Regional Adviser, Nutrition and Health for Development, WHO Regional Office for South East Asia)

講演1 「日本版栄養プロファイリングモデルの開発と実装」
瀧本 秀美
(国立健康・栄養研究所 所長)

講演2 「日本版栄養プロファイリングモデル加工食品版の開発：栄養基準値・食文化を考慮したローカライゼーション戦略」
竹林 純
(国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究センター 食品分析・表示研究室 室長)

講演3 「日本版栄養プロファイリングモデル料理版の開発とアジア地域での応用可能性」
東泉 裕子
(国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究センター 食品安全・機能研究室 室長)

2026
1.29 THURSDAY
午後 1:00 - 3:00
日本標準時 (JST)

日本や国内外の政策立案者、研究者、公衆衛生分野の大学院生・学部生の皆さまのご参加をお待ちしております。

参加登録

主催 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所

窓口 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 産官学連携研究センター 国際連携栄養研究室
お問い合わせフォーム: <https://forms.gle/eyf6HD8no8VW75sca>

→登録フォーム

『災害栄養情報研究室』：令和6年能登半島地震の避難所で生じていた衛生問題

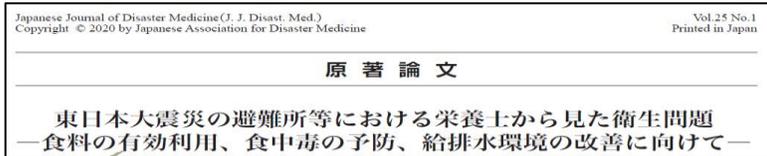
目的

令和6年能登半島地震における避難所で、どのような衛生問題が生じていたのか明らかにすること

方法

災害時保健医療福祉活動支援システム（D24H）上に支援者が入力した自由記載欄を演繹的に分析（避難所ラピッドアセスメントシート[2/14 16時ダウンロード]を分析）

(先行研究)



東日本大震災の避難所で発生していた衛生問題が、今回も発生したのか？

食料の偏り・不適切な保管 (14)

- 期限が切れる (3)
- 保管状態が悪い (7)
- 物資の余剰 (4)
- ミスマッチな物流 (0)

調理環境の不備 (5)

- 調理場が不衛生 (4)
- 支援体制の不備 (1)

給排水環境の不備 (78)

- カップ麺のスープが捨てられない (0)
- 生活用水が足りない (41)
- トイレに行かない (1)
- その他：トイレ環境が悪い (36)

居住空間が狭い・不快 (45)

- スペースが狭くプライバシーがない (19)
- ペットの悪臭 (1)
- 仮設住宅の不備 (0)
- その他：感染対策の不備 (25)

中カテゴリ	
期限が切れる (3)	<ul style="list-style-type: none"> 食料支給が不足し賞味期限が10日過ぎたパンが届いている。 消費期限が切れているおにぎりが届く
保管状態が悪い (7)	<ul style="list-style-type: none"> 要冷蔵の食品が常温で放置されていた 調理に使う袋入りカット野菜がエントランスに放置されたまま
物資の余剰 (4)	<ul style="list-style-type: none"> カップ麺・おにぎり・パンばかりなので栄養の偏りが心配 カップ麺はあるが、パン・おにぎりなし。カップ麺以外が欲しい

中カテゴリ	
生活用水が足りない (41)	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯は小学校で山水を、使ってやっている 生活用水は雨水であり、雨水で洗顔と手洗いをやっている 自衛隊の浴場までの足問題と段差により一ヶ月入浴できていないなど
トイレに行かない (1)	<ul style="list-style-type: none"> 下水が通ってないので排泄を我慢する避難者が多い、そのため、水分補給を控える傾向がある
その他：トイレ環境が悪い (36)	<ul style="list-style-type: none"> トイレに吐物あり トイレがないため川でしている トイレは海にしている状況 トイレも3つあるが手洗い場なくアルコール消毒のみ

水分や食事の提供量を充足させるだけでなく、避難所の衛生問題を解決し、十分な水分・食事の摂取を促す避難所運営が重要であることが示唆される

『災害栄養情報研究室』：産官学連携 共同研究

連携大学院との共同研究

宇宙栄養学コース（3年目）

宇宙での栄養学を専門的に学ぶ大学院コースを2023年4月に開始（文科省事業）



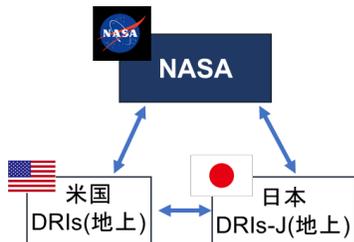
■ 特殊環境である宇宙環境における日本人の栄養摂取基準設定研究

研究デザイン

・日本人が宇宙に行くことを想定して栄養摂取基準量を算出

【栄養摂取基準比較】

- ・NASA基準
- ・米国DRIs
- ・日本DRIs



- ・日本宇宙生物科学会 2025
- ・APRSAF Asia-Pacific Regional Space Agency Forumにて途中報告発表（修士論文作成中）

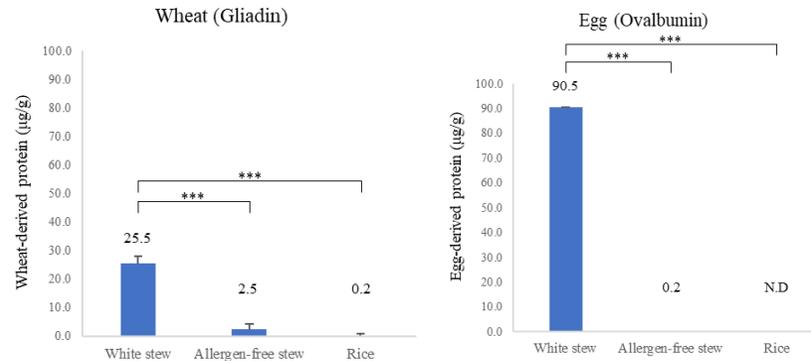
東京家政大学との共同研究

■ 災害時食物アレルギー対策としてのパッキング法の確立に向けた安全性の解明



通常シチュエの中で、アレルギーフリーシチュエをパッキング調理した場合、アレルギー（小麦・卵・乳）は混入するのか？

↓
ELISA法による結果（一部）



炊き出しシチュエの中で、アレルギー対応シチュエを作るパッキング法の安全性が示唆された。

※小麦由来のタンパクが少量検出されたが、日本のアレルギー表示閾値（10 µg/食品1g）を下回っていた

・ Measurement: Food 2026;21:100273

吹田市との共同研究

- 宿泊型避難訓練時における水分摂取行動と仮設トイレ利用の関連性
 - ーウェアラブルデバイスによる睡眠・身体活動評価を含む検討

吹田市危機管理室との共同研究
※吹田市：連携協定締結機関

（身体活動研究センターとの共同）

岩手医科大学との共同研究

■ 岩手県における東日本大震災被災者の支援を目的とした大規模コホート研究

東日本大震災被災者の追跡データからみた食事・飲酒・運動と肥満・生活習慣病の関連について



（身体活動研究センターとの共同）

『研究連携推進室』 持続可能な地球と人にやさしい食事に資する研究

弘前大学COI-NEXT連携

プラネタリーヘルスダイエットと排便状況との関連

背景・目的

・近年、環境負荷を考慮した健康的な食事が注目され、EATランセット委員会はプラネタリーヘルスダイエット（PHD）を提唱した。

・PHD食を4週間以上摂取した人はプロバイオティクス関連細菌（*Bifidobacterium adolescentis*）の割合がわずかに増加したことが報告された（Rehner et al. 2023）。また、プロバイオティクス関連細菌と食物繊維の相互作用は、腸の健康を促進することが報告されている（Wang et al. 2022）。



健康的な腸内環境と関連する可能性があるが、科学的根拠は十分ではない。本研究は、PHDと排便状況の良さとの関連を明らかにすることを目的とした。



弘前大学においてCOI-NEXT運営委員会で研究報告
2025年10月22日

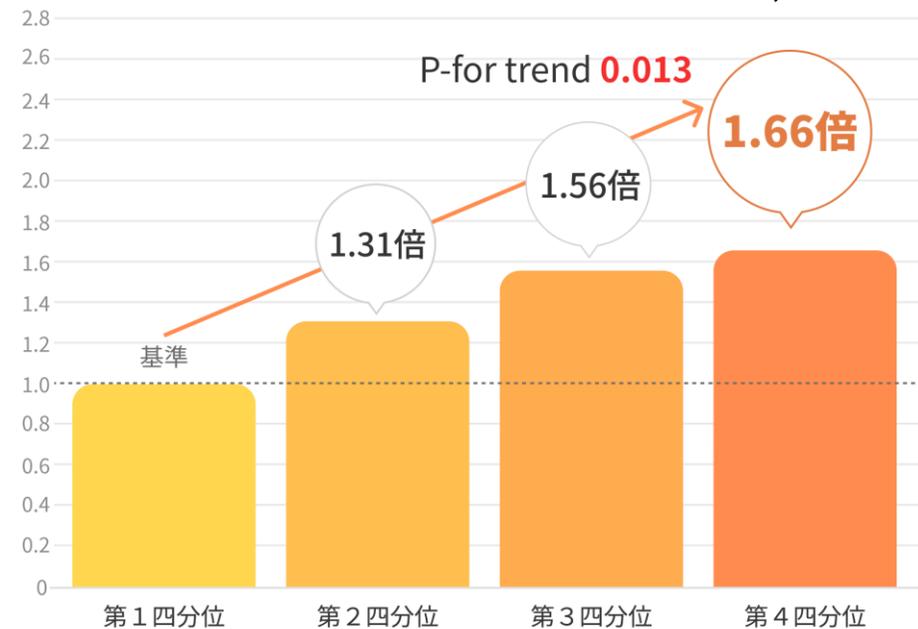
今後の計画

腸内細菌のデータを用いた解析を進め、PHDが腸内環境に及ぼすメカニズムを明らかにする



● 良好な排便状況オッズ比

岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診
青森県岩木地区住民 1,324名



PHDに近似する食事のインデックス (Sustainable Dietary Score : SDS)

PHD: 全粒穀類、豆類、魚介類、種実類、野菜類、果物類、食物油を中心とした食事

(論文投稿準備中)

『研究連携推進室』食環境整備のための社会実装に資する検討（吹田市連携事業）

おいしく たのしく バランスよく！えらんで☆健康ごはんナビ（ごは★ナビ）

食品保健機能研究センター 食品健康情報研究室 中舘 美佐子 研究員と共同で実施

【目的1】健康的で持続可能な食事の実践のため、特定給食施設の食環境整備の改善を図る

【目的2】青年期、成人期における主食・主菜・副菜のそろった食事の意識または実践する人の増加

研究
1

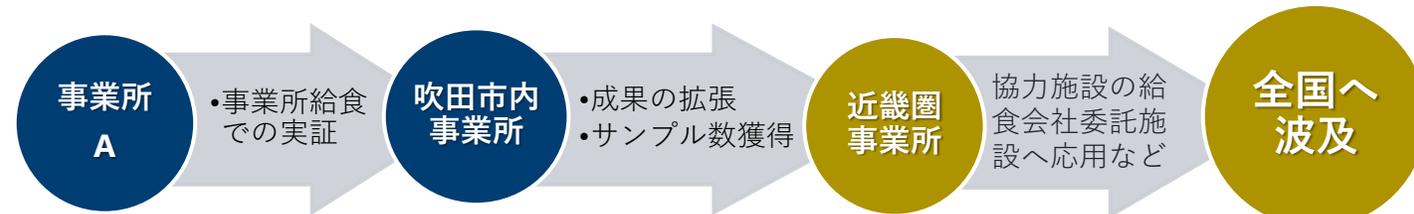
大学カフェテリアでの実装



吹田市事業から派生

研究
2

事業所給食施設での実装



吹田市事業から派生

方法

献立評価

日本版栄養プロファイリングモデル料理版 (NPM-DJ) を使って評価し、星ランクを決定



栄養表示ナッジ

星ランクを表示し、利用者の選択行動への影響を調査



従来方法*
4week

栄養表示ナッジ
4week

主要評価：購買状況の変化（選択率の変化）
意識・行動の変容（アンケート）
副次評価：実施施設での受容性・実施可能性
尿検査指標（Na/K比、推定食塩摂取量等）

『研究連携推進室』 食環境整備推進のための産学官等連携共同研究プロジェクト

「人生100年時代」を見据えて、健康寿命の延伸を実現するためには、産学官が一体となって食環境を整えることが必要です。本プロジェクトでは、**健康への意識が高い人だけでなく、すべての人が、意識せず、自然に健康になれる食環境モデル**を構築することを目指します。

R5年度より当研究所と企業が連携し、「食環境整備推進のための産学官等連携共同研究プロジェクト」を始動しました。

【参画企業（R7年度現在）】

味の素株式会社
江崎グリコ株式会社
カゴメ株式会社
キッコーマン株式会社
日清食品ホールディングス株式会社
株式会社ニッスイ
株式会社 明治
ゼンショーホールディングス

食環境整備推進のための 産学官等連携共同研究プロジェクト シンポジウム

2026年
2/17 TUE

無料

【テーマ】
あるべき食環境整備とは

本プロジェクトは、
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と
参加企業6社の共同プロジェクトです。

当日プログラム

- 13:30~13:40 開会挨拶(13時開場)
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
理事長 中村祐輔
厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課 課長 丹藤昌治
- 13:40~14:10 基調講演
「健康的で持続可能な食環境づくりへの期待」
女子栄養大学 副学長 武見ゆかり
(健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ
有識者会議委員長)
- 14:10~14:35
食環境整備推進のための産学官等連携
共同研究プロジェクト成果報告
1) プロジェクトリーダー 伊東秀之
2) ワーキンググループ代表者
データベースワーキンググループ 中村美詠子
フィードバックワーキンググループ 東泉裕子
社会実装ワーキンググループ 小堀真珠子
シミュレーションワーキンググループ 池田奈由
- 14:35~15:00 休憩(企業展示)
- 15:00~16:30 総合討論
「あるべき食環境整備とは—今後の展望—」
モデレーター: プロジェクトリーダー 伊東秀之
登壇者: (産)本プロジェクトの参加企業
(学)女子栄養大学副学長 武見ゆかり
国立健康・栄養研究所長 瀧本秀美
(官)厚生労働省/農林水産省/消費者庁
- 16:30~16:35 閉会挨拶
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
国立健康・栄養研究所 所長 瀧本秀美

食環境整備のための産学官等 連携共同研究プロジェクトとは

Project Goal

自然に続けられる、健康で、おいしい食生活の実現に向けて

本プロジェクトでは、健康への意識の高い人だけでなく、すべての人が、意識せず、自然に健康になれる食環境モデルを構築することを目指します。

目的

産学官等の連携による実行性及び持続可能性のある食環境を整備し、公衆衛生の向上および増進を図り、国民健康の向上に貢献します。

参加企業を募集中です！
是非お声がけください。



詳細はこちら

現地開催

参加申込はこちら

定員 1,100名

申込締切: 2026年2月10日(火)

13:30開演(13:00開場)

※(公社)日本栄養士会 生涯教育単位認定
実務研修 全分野共通 講義1単位



場所・アクセス

有楽町よみうりホール

(東京都千代田区有楽町1-11-1 読売会館7階)

●JR山手線有楽町駅 ●京浜東北線
有楽町駅 国際フォーラム口すぐ

●東京メトロ有楽町線
有楽町駅 D4、D6 出口すぐ

※専用駐車場はございません。
お車の場合は周辺駐車場をご利用ください。

<https://yomi-hj.jp/access.html>

主催 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

後援 厚生労働省・農林水産省・消費者庁・日本栄養士会

問い合わせ 株式会社コンベンションリンケージ E-mail: shoku-sympo2026@c-linkage.co.jp

『産官学連携研究センター』における今後の取組

【国際連携栄養研究室】

- 招へい事業を通じた研究テーマを継続し、各国政府の政策支援につなげ、シンポジウム・セミナー・国際イベントの情報や年次報告書を配信し、活発な意見交換ネットワークを構築する。そのネットワークを通じて、さらなる共同研究の機会を創出する。
- 持続可能な食環境等を主題としたWHO出版物の翻訳、WHO等の国際機関が推進する政策や戦略文書の翻訳出版や解説を通して、国内の関連政策や事業との連携推進を図り、持続可能な食環境づくりに向けた協働の取組み機会を創出する。

【災害栄養情報研究室】

- 避難訓練等を活用して、避難環境・心理状態・集団生活などが食事摂取量・飲水行動・睡眠指標に及ぼす影響を実証的に評価する。
- 被災地で収集されたD24H等の災害時データから、被災者の健康問題、地域差・時系列変化・課題構造を多角的に評価する。

【研究連携推進室】

- 自治体・大学と連携し、栄養プロフィールモデル（料理版）における高スコア料理が選択されやすい販売環境（配置・表示・価格設定）の特性を把握し、ナッジを用いた介入効果を定量的に検証する。
- 産官学連携のもと、食環境に関わる行動特性や健康関連指標を多面的に解析する基礎・応用研究を推進し、ICT活用や大規模データの統合分析により実証研究の精度を高め、政策提言や環境整備に資する研究基盤を構築する。